

会報第38号  
発行日 平成19年11月30日  
発行・編集 V・G 概輪  
代表者 大岡成一  
http://web3.ibj.co.jp/~kirin

# きりん V.G概輪だより

## わがまち紹介

### 歴史の散歩道…浦堂地区

#### 浦堂地区

市道路は、社会・経済活動を支え、幹線道路へのアクセスや日常生活の利便性の向上、また、災害時には、避難路・延焼遮断帯ともなる重要な都市基盤施設です。

浦堂地区は、南平台から日吉台への重要な道路ですが、南平台口日吉台線は、南蔵司の間が未完のままです。



浦堂東のバス停近くには近在農家の方の朝市が開かれています。

服部地区は、急激な住宅開発が進み、昭和43年、5つの集落、宮之川原・塚脇・浦堂・大蔵司・西之川原が町名となった。

浦堂を流れる川は真上池を経て真如寺川から芥川に流れています。浦堂は山裾に沿って古くから開けた安岡寺の門前まちです。

浦堂本町には、安岡寺に通じる美しい参道が有ります。安岡寺の寺域で有ったこの事ですが、今は住宅街になっています。

#### 安岡寺

古びた感じを漂わせている「山門(総門)」は周囲の木立にとけ込んでいます。

百ほどある長い石の階段を登りきった先に、ようやく本堂が見えて来ます。

安岡寺は、第五十代桓武天皇の兄君にあたる開成皇子がこの地を霊地であると感得され、一刀三礼して観音像を自ら刻まれ、宝龜六年二月十八日に建立された。

現在の本堂は、キリシタン大名で有名な高山右近によつて荒らされた後に再建されたものであるが、そこには本尊である如意輪観世

音菩薩 愛染明王、不動尊などをお祀りしている。

安岡寺はその「安岡寺」という名より、高槻観音という名称で親しまれており、神峯山寺を北山観音といふのに対し、安岡寺は南山観音とも呼ばれ、小高い山全体が、昔から観音霊地として信仰されている。

本堂に安置されている本尊は、如意輪観世音菩薩(秘仏)。脇仏として、明治初年男山八幡宮より移された愛染明王と、弘法大師作の不動明王が、安置されている。

青梅観音堂  
安置されている行基作という千手観音坐像は、俗に青梅観音と呼ばれ、平安朝時代の優れた代表作として、この種の彫刻では日本三番目に古く、また最大のものであり、重要文化財に指定されている。



葉観音堂  
古くは阿弥陀堂と呼ばれていたが、現在では篤志家の寄贈による聖観音菩薩像が安置されている。宝龜6年(775)、光仁天皇の子、開成皇子の創建と伝えられ、弟子の開智が一石一字の大般若経を書写して安置したことから、安岡寺般若院(ほんにやいん)と称するようになりました。

薩像が安置されている。

の門柱の境内側に、『西方浄土極楽入口』の文字が彫られている。

般若塚  
仁天皇の子、開成皇子の創建と伝えられ、弟子の開智が一石一字の大般若経を書写して安置したことから、安岡寺般若院(ほんにやいん)と称するようになりました。

弘紹不動明王  
「本堂」の東側にある広場の奥、山際に祀られている「弘紹不動明王」は毎年2月1日に当寺で行われる節分会大護摩供の本尊となり、多数の大峰山の行者たちが大護摩を焼き、行者たちが参拝に訪れた人々が焼けた丸太の上を素足で歩く火渡り式が行われる。

西蓮寺  
ご本尊は阿弥陀如来像で、親鸞聖人のみ教えを伝える念仏道場で、明応年間(1492~1501)に草創され宝暦年間(1780代)に本堂再建、平成10年に屋根替え等の大修理が行われた。

安岡寺では、平日にも関わらず本堂・青梅観音堂等を開門して頂きました。お茶とお菓子のおもてなしまで頂き有り難う御座いました。

### 12月度行事予定

「芥川の自然と郷愁に誘われるまちの散策：真上地区」

月 日：平成19年12月13日(木)  
集合場所：JR 高槻駅 改札出口 13:00集合  
順 路：JR 高槻駅→西国街道→教宗寺→芥川城跡碑→門前橋→真如寺→笠森神社→緑ヶ丘バス停

### 1月度行事予定

「新春の摂津地区を散策：総持寺・三島町地区」

月 日：平成20年1月17日(木) 13:00集合  
集合場所：阪急総持寺駅(西出口：駅員常駐口)  
順 路：阪急総持寺駅→総持寺→光明寺→虎水磯良神社→新屋坐天照御魂神社→鴨神社→阪急富田駅(天候により順路を変更します)  
その他：総持寺では住職ご説明して頂く予定です。